令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト
建設型仮設住宅全戸訪問 報告書

報告日:2025 年 3 月 24 日
報告とりまとめ:宮前繁

地震発生から 1 年 3 ヶ月、水害発生から 7 か月が経過し、地域は少しずつ落ち着きを取り戻している。しかしながら、複合災害による甚大な被害は生活の再建向けた道のりを過酷なものにし、健康状態に長期的な影響をもたらしている。このたび、建設型仮設住宅の方を対象に、今後の住まいに関する意向、健康・日常生活に関する調査が実施された。本プロジェクトは、健康・日常生活に関する調査を主体に参画した。活動について、以下報告する。

✧ 目的

令和 6 年能登半島地震、令和 6 年奥能登豪雨で被災され、建設型仮設住宅に入居された方々以外を対象に個別訪問を実施し、健康や居住環境についてヒアリングを行い、必要に応じて支援を実施する。

✧ 期間

2025 年 3 月 10 日～19 日

✧ 対象

建設型仮設住宅に入居された方

表. 活動者、訪問結果一覧

日付※2025 年	活動者	面談件数/訪問件数
3/9(日)	酒井 ※事前打ち合わせ	―
3/10(月)	酒井、網木、宮前	23/61
3/11(火)	網木、宮前	25/67
3/12(水)	寺田、作川	22/46
3/13(木)	寺田、金谷	27/78
3/14(金)	福島、花房	30/63
3/15(土)	佐々木、福島、金谷、紫	41/73
3/16(日)	佐々木、朝田、金谷、紫	52/102
3/19(水)	酒井、作川、花房	15/33
合計	**延べ 23 人**	**延べ 235/523**

災害ボランティア・NPO活動サポート募金
令和6年能登半島地震災害看護プロジェクトは、災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）の助成金により活動しています。※助成期間：2025年3月31日まで
ご寄付くださった皆様に、心より感謝申し上げます。

➢ 地震発生から１年３ヶ月、水害発生から７か月後の健康、生活状況とその課題

【現地の状況】

瓦礫、土砂の撤去、道路整備が進み、奥能登の豊かな大地の広がりが感じられる景観になってきた。最後の避難所閉鎖があり、一区切りとなった時期に今後の住まい、現在の健康、居住環境についての全戸訪問が行われた。

建設型仮設住宅を訪問すると、健康面、生活面に各々の状況に応じた問題、不安が生じながらも、個々が将来を考え力強く動き出していた。健康面は、疲れやすくなったと回答される方が多くいた一方、「畑仕事に」「海に」「散歩に」と体調面に気を配り、身体を動かす機会や外出する機会を設けられていた。医療機関への受診は、バス等公共交通機関の利用や自家用車を使用しており、未受診者は限られていた。生活面は、移動販売車の普及もあり、買い物等への不便さを感じられている方は少なかった。しかしながら、物価高騰の影響、仮設住宅入居による以前の住まいからの光熱費の変化もあり、月々の支出に対し、先の不安を感じられている方が多かった。収入に関し、若年層では雇用先の確保、熟年層では仕事の再建または年金でのやりくりと、世代に応じた悩みを抱かれていた。特に高齢者の方々は、今後の住まいが自宅再建、復興住宅、高齢者施設入居のいずれになるかを、家計の状況をうかがいながら悩まれていた。建設型応急仮設住宅という環境については、団地により状況が異なった。町民や集落の方の多くが同じ団地に入居した方々からは、「知った人が多いから」「みんな一緒だから」と、話される一方、元々の知人が団地にいない方々は、周囲とは交流機会はあまりなく、挨拶程度や地域の集まりにも足を運んでいないと話されていた。

【課題と考察】

コミュニティの復興と健康への影響の連環を捉えた重層的な継続支援が求められる。災害の発生から時が経ち、落ち着きが感じられ、将来の珠洲市に向けた地域の文化的生業の再建、教育体制の再構築など各分野で取り組みが進んでいる。しかし、この時間の経過、住まいの変化等は、心身の健康に強い影響を受けられた方、元々の町内や集落内で行われた自助支援、共助ともいえるつながりが途切れてしまった方、次への一歩を踏み出せない方が抱えられていた問題を表在化させてきたといえる。不安的な心身の状態、日常生活環境の増悪、生活困窮等であり、今後このような問題が生じるであろう方もいた。地域の状況、保健医療福祉システム、そこにある生活、個々の環境や心身の要因が複雑に影響し合い、健康とウェルビーイングに影響をもたらす。引き続き、地域の状況を踏まえつつ、保健医療システムを担う現地支援者の支援、地域の方々に寄り添った関わりが必要である。潜在化している問題、表在化した問題の双方を捉えつつ、若年層、熟年層のそれぞれに応じた心に抱えるものを吐き出せる場、地域内の交流機会の設置支援、生活再建、健康相談等の具体的な支援、また必要に応じて保健医療福祉システムにつなげながらも、住民間の自助支援、共助の創出に向けた関わりも行うことで、生活復興がコミュニティ復興へ、そして復興が健康への有益な影響となる循環につながるよう、今後も地域、住民に寄り添った活動が望まれる。

災害ボランティア・NPO活動 www.saigaihan.or.jp サポート募金

令和6年能登半島地震災害看護プロジェクトは、災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ）の助成金により活動しています。※助成期間：2025年3月31日まで

ご寄付くださった皆様に、心より感謝申し上げます。